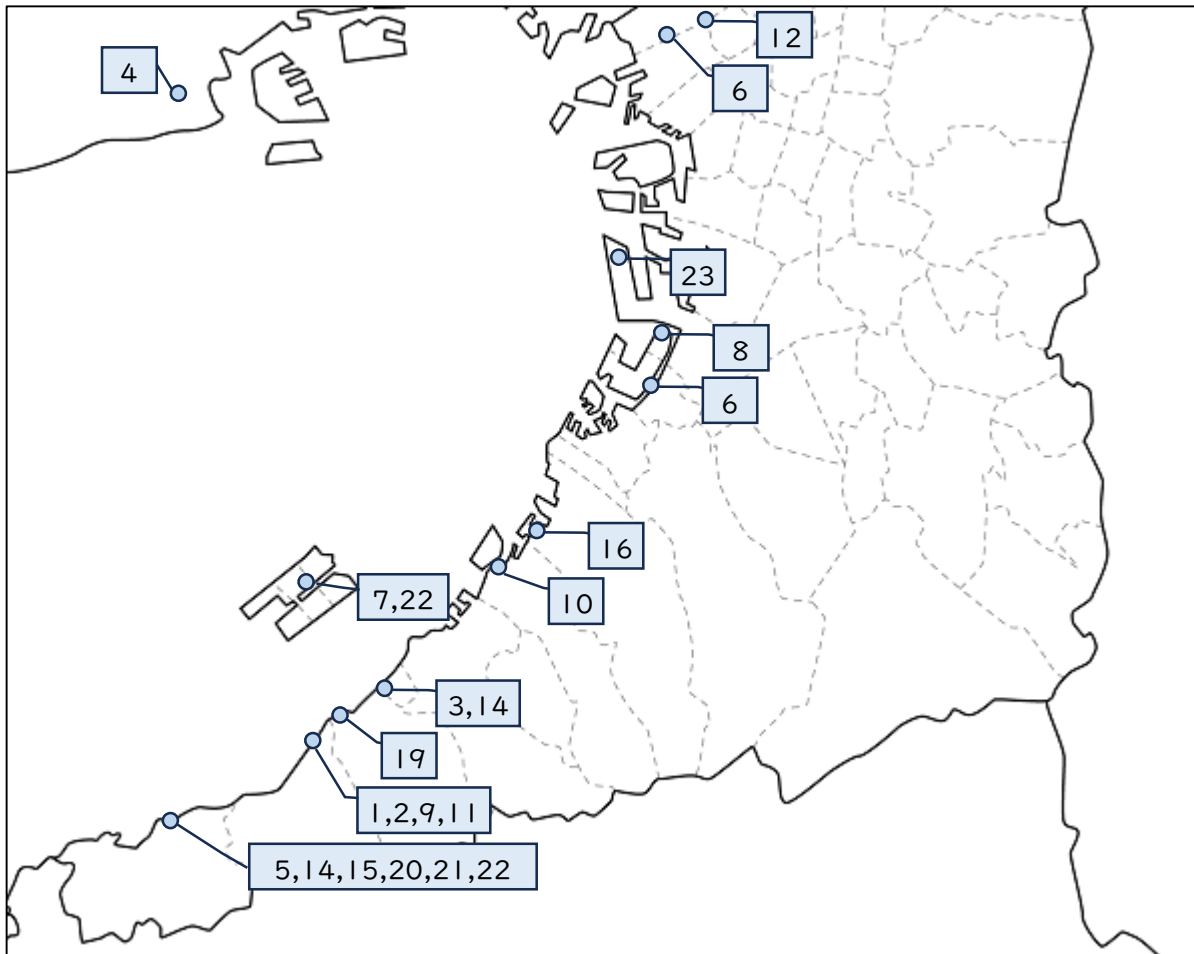


4. 活動事例

大阪湾の保全・再生・創出活動の企画・設計を行うにあたって参考となるよう、大阪湾や他の海域で実施されている活動事例をとりまとめました。その中で、事例1～5の5事例についてはヒアリングを行い、取り組みが広がっていった経緯や活動の発展・継続のポイント等について記載しました。今後の活動にご活用ください。

番号	区分	実施団体	概要
大阪湾における活動事例			
事例 1	藻場創出/生物観察	株式会社漁師鮮度	アマモ場創出/生物調査/山・里・海の循環を学ぶ体験イベント/海洋教育
事例 2	藻場創出	関西大学北陽高等学校	アマモ場創出/海洋教育/教材作り
事例 3	藻場創出	大阪から明るい水産業を創る会	ワカメ収穫体験/食育推進
事例 4	清掃美化活動/藻場創出/生物観察	兵庫運河を美しくする会	アマモ場創出/清掃活動/生物調査/アサリ等の保全
事例 5	生物観察	BAZ11/STEAM CLUB	海洋教育/生物観察
事例 6	藻場創出/清掃美化活動	NPO 法人大阪海さくら	アマモ場創出/淀川河口等での清掃活動
事例 7	藻場創出	関西エアポート株式会社	藻場の保全・再生
事例 8	藻場創出	E N E O S 株式会社堺製油所	藻場創出活動
事例 9	藻場創出	阪南市他	小学生が育てたアマモ苗の移植活動
事例 10	生物観察	貝塚市立自然遊学館	二色の浜、近木川河口での生物調査
事例 11	生物観察	チーム☆ガサ	生物調査/海洋教育
事例 12	生物観察/漁業体験/清掃美化活動	なにわエコ会議	漁業体験/生物観察/清掃美化活動
事例 13	生物観察/自然再生	津之江公園を活かす会（一般社団法人たかつき環境市民会議、たかつき市民環境大学 OB 会）	自然再生/生物観察/環境学習
事例 14	生物観察/漁業体験/海洋レジャー	公益社団法人大阪自然環境保全協会（ネイチャーおおさか）	地曳網体験/砂浜・干潟での生物観察/シュノーケリング体験
事例 15	海洋レジャー/生物観察	大阪府立青少年海洋センター	ヨット、カヌー、砂浜での各種活動などの海洋レジャー体験
事例 16	生物観察/漁業体験	きしわだ自然資料館	大阪湾・琵琶湖・淀川をテーマとした環境学習
事例 17	清掃美化活動/生物観察	NPO 法人地球環境市民会議（CASA）／一般財団法人環境事業協会	離島でのプラゴミ調査/海の生物観察
事例 18	清掃美化活動/生物観察	一般財団法人環境事業協会	無人島での清掃美化活動/生物観察
事例 19	清掃美化活動/生物観察	男里川干潟を守る会	男里川河口干潟での清掃美化活動/生物観察
事例 20	清掃美化活動/生物観察	自然と本の会	阪南市域の海岸での清掃美化活動/生物観察
事例 21	生物観察	せんなん里海公園管理事務所	ウミホタル・陸ガニの観察会/チリメンモンスター
事例 22	生物観察	海遊館	スナメリ調査/飼育員と一緒にを行う海岸での生物観察
事例 23	自然再生	NPO 法人共生の森/大阪府	産業廃棄物埋立処分場跡地での自然再生（森づくり活動等）
他の海域における活動事例			
事例 24	自然観察/水辺レジャー	NPO 法人あそんで学ぶ環境と科学倶楽部	東京の水路を巡るエコツアー
事例 25	文化的資源の体験/生物観察/清掃美化活動	一般社団法人瀬戸内海エコツーリズム協議会	宮島エコツアー
事例 26	清掃美化活動/生物観察/自然再生	天神崎の自然を大切にする会	天神崎の自然保護と環境教育

(参考) 大阪湾における活動事例の主な活動場所（番号は事例番号を示す）



(1) 大阪湾における活動事例

事例1 株式会社漁師鮮度 (<https://ryoushi-sendo.co.jp/>)

<実施概要>

藻場創出

生物観察

実施場所	阪南市の沿岸（西鳥取漁港西海岸、下荘漁港西海岸、尾崎港西海岸）が中心。 山から海が川で繋がっていることを意識して、山や川、田んぼなどでも活動を展開。
目的	企業としての事業の柱は、カキの養殖、カキ小屋の運営・販売であるが、海を舞台にした観光事業、海洋教育や藻場造成など環境保全事業も展開している。
内容	○阪南市内の全小学校で実施する海洋教育の企画、運営に携わる。 ○阪南市との協働事業として、企業とのアマモ場再生や生き物調査のサポート、アマモ場の面積調査や生き物調査を実施している。 ○独自の環境保全事業として体験イベントを企画し、実施している。
実施時期	○アマモ場の面積調査、企業と協働で行う生き物調査は毎年春に実施。 ○体験イベントは、イベントの内容によって実施時期が異なる。 （例）「海と陸とのつながりを味わおう！」：通年 「みんなでワカメを育てよう！」：12月（種付け）、3月（収穫）
対象	阪南市内の小学校（小学生、教員）や、海洋保全活動に関心のある企業など。 独自に実施するイベントは、誰でも参加できるようにしている。
成果・実績	○阪南市内の全小学校でアマモ場の再生に関する海洋教育が展開されるほか、企業等による活動を支援。 その結果、市内沿岸のアマモ場面積は2018年と比較して約1.6倍に増加した。 ○2022年に「阪南市の海域環境保全、地域活性化に関する協定」を阪南市と締結し、海域環境保全の活動等、地域に根差した事業提携を実施している。



小学生を対象とした
海洋教育の様子※1

<取組みが広がっていった経緯>

阪南市でのアマモ場再生から始まり、全国アマモサミットの誘致、市と連携した事業展開へ。

- 阪南市を拠点とする株式会社漁師鮮度の環境保全事業は、NPO 法人大阪湾沿岸域環境創造研究センター（以下、「NPO」と表記）と共同で行っている。元々NPOが主体となっていた活動を、海洋の環境修復のコンサルタントに従事する岩井さんが2021年の会社設立後に共同で行うようになった。
- NPOでは、大阪湾再生の取組みの一環で2003年頃から大阪湾各地でアマモ場再生を試みるようになり、活動を知った阪南市内の箱作小学校（現在は閉校）の教員の誘いで、岩井さんたちが小学生とアマモ場再生に取り組むようになった。
- その後、岩井さんが阪南市の海に地域資源としての可能性を強く感じて、市に全国アマモサミットの誘致を提案し、「全国アマモサミット2018in 阪南」の開催が実現。このイベントを機に阪南市は海を生かした地域支援に注力し始めた。1校の小学校から始まったアマモ場再生の活動は、市と連携して3校に広がり、現在は市内全8校の小学校で海洋教育を行っている。

※1 阪南市役所 HP 内 <https://www.city.hannan.lg.jp/kakuka/mirai/promotion/SDGs/7843.html>

＜活動の発展・継続のポイント＞

大阪湾の魅力を広く知ってもらうために、市民向けの海の体験イベントを実施。

- 大阪湾の恵みを楽しむイベントとして、2012年から体験イベントを実施している。「海と陸とのつながりを味わおう！」では、1年を通して米作りから大阪湾での海苔養殖、海苔漉きまでを体験し、自分たちで作った米と海苔でおにぎりを握って食べることで、山、里、海の循環を学ぶイベントとして人気を博している。



イベント「海と陸とのつながりを味わおう！」の様子※2

- 2014年からは「みんなでワカメを育てよう！」というイベントを開始。ワカメの収穫体験を行った後に重量を測定し、海の栄養でワカメが育ちCO₂を吸収していること、さらには海の環境が保たれていることを知ってもらうイベントとなっている。

阪南市と連携して、市内の全小学校で海洋教育を展開。教員を対象とした研修も実施。

- 阪南市内全8校の小学校での海洋教育では、地域の特性を生かし、海岸付近の学校はアマモ場再生等の活動を行い、海から遠い学校は山の整備や田植え体験、川での生き物観察などを各教員が企画し、実施している。海での活動ができなくても、山や里の豊かさが川を通じて海に繋がっていることを示し、海との関連性を訴求しながら展開するよう教員に指導している。
- 海洋教育の継承に向け、市内教員向けの研修も毎年実施している。2024年は「海の安全」をテーマに、ペットボトルなど身近にある浮くものを活用した救護方法をレクチャーした。

海の活動に取り組む行政や企業を支援しながら、アマモ場再生や生き物調査を実施。

- 2008年頃に地域の漁師の助言を得てアマモの分布調査を行った結果、想像以上にアマモ場があることや、過去にアマモが自生していたが今は生えていない場所があることが分かった。活動するにあたり活動場所の選定は重要であり、過去や現在の分布状況の把握や専門家からの助言、行政との調整が必要となる。現在は阪南市から調査費用の支援を受けながら、毎年ドローンや目視によるアマモ場の面積調査を実施し、小学校を中心に生き物調査を行っている。
- 「海洋保全活動をしてみたい」と相談に来る企業や団体に対し、アマモ場再生や生き物調査等の活動を提案し、サポートしている。また、全国アマモサミットの開催をきっかけに、阪南市と一般財団法人セブン-イレブン記念財団が10年間の協定を締結し、実施する「阪南セブンの海の森」取り組みもサポートしている。阪南市では2022年にJブルークレジットの認証、2023年には自然共生サイト(OECM)の認証を受けたが、購入だけではなく「ぜひ阪南市に来て、一緒に活動してほしい」と思っている。

＜キーパーソンのメッセージ＞

活動を持続可能にするために、皆で連携し、成果を分かち合うことが重要。

アマモ場の造成は、種をまく地道な活動と、アマモ本来の繁殖力の両方が合わさってこそうまくいく活動である。子どもたちが植えるアマモの数は決して多くはないが、保全活動によってアマモに備わった力を手助けすることができる。また、海洋保全活動は持続可能であるべきだと思う。持続可能な取り組みに向けて、汗を流して取り組むことや、成果を独り占めせずに「みんなのもの」として共有することが重要だ。自分たちだけでできることは限られているので、いろんな人と連携するとよいだろう。



株式会社漁師鮮度 代表取締役 岩井克巳さん。
NPO 法人大阪湾沿岸域環境創造研究センター専務理事なども務める。

※2 NPO 法人大阪湾沿岸域環境創造研究センターHP内 <https://osakawan.or.jp/2024/07/23/2024ikimono/>

事例2 関西大学北陽高校 (<https://www.kansai-u.ac.jp/hokuyo/>)

＜実施概要＞

藻場創出

実施場所	関西大学北陽高校内（大阪市東淀川区）、地区府内の各小学校、阪南市内、八重山諸島（修学旅行先）
目的	高校生による海の保全や教育に関する活動とその普及
内容	高校1年生と2年生の保健の授業で探究型の海洋教育を行い、授業を受けたクラス全員が「海洋プログラムチーム」の一員として年間単位で海洋のテーマに取り組む。 2024年度は普及のための教材づくり、小学校への出前授業、修学旅行での海洋プログラム（サンゴ移植、マングローブ植樹等）、高校生サミットでの発表等を行った。
実施時期	授業は1学期の後半から2学期の中旬くらいまで。他に修学旅行や高校生サミット等の恒例行事や郊外活動がある。
対象	主に関西大学北陽高校特進アドバンスコースに所属する高校1年生・2年生。出前授業は府内の小学生が対象。
成果・実績	○探究型の授業で2年かけて海洋のテーマに取り組み、海の問題に興味を持つ新たな学生やOBを年々輩出している。 ○仲間を増やすことや活動を広めることをミッションに、学んだことを校内・校外で発表する等、活動の輪を広げている。



高校生による小学校への出前授業

＜取組みが広がっていった経緯＞

沖縄の修学旅行がきっかけで海洋教育をスタートし、身近な大阪湾でアマモ場再生の活動へ。

- 沖縄の修学旅行で、ごみを拾い集めるプログラムを行ったところ、海洋ごみがたくさんあることを知り、学生たちとともに達成感を感じたことが海洋プログラムを始めたきっかけである。
- 海の環境問題に興味を持ったことで、大阪での活動を模索して各方面にメール等で連絡したところ、NPO 法人大阪湾沿岸域環境創造研究センターの岩井克巳さんから「一緒にアマモ創出の取組みをやりましょう」と返信をもらい、2017年から生徒会の生徒たちが中心になって阪南市でのアマモ場再生活動に加わり、大阪湾での活動をスタートさせた。
- 当初、海洋教育は理科の授業で行っていた。しかし、理科の先生が退職。その一方で阪南市での活動は地域との関係性が構築されつつあったので、大阪湾での活動を担当していた体育の先生が引き継ぎ、2018年以降は海洋教育を保健の授業として行っている。

「海洋教育パイオニアスクールプログラム」の助成金で、数年ごとに新たな課題に取り組む。

- 「海洋教育パイオニアスクールプログラム」※1の助成事業に申請し、2017年度はサンゴの活動、2018年度から2022年度までは大阪湾でのアマモの活動が採択された。2024年度からは新たな助成事業として「海洋教育を楽しく学べる教材作り」に取り組んでいる。
- 活動成果は毎年「海辺の自然再生・高校生サミット」等で発表し、高校生が毎年新たなテーマで海の環境問題と向き合い、探究を続けている。

※1 海洋教育パイオニアスクールプログラム <https://www.spf.org/pioneerschool/>

＜活動の発展・継続のポイント＞

保健の授業で海洋教育を行い、班ごとに1つのテーマを決めて海の課題を探究。

- 年間 35 時間の保健の授業のうち、10 時間を海洋教育に充てている（2年間で 20 時間）。保健の授業は「環境」もカバーしており、近年は環境問題の高まりで教科書に海洋プラスチックのことも載るようになった。
- 海洋教育は探究学習の一環でもあるので、最初の2～3時間は座学で、残りは演習時間として、班ごとに1つのテーマを決めて探究していく。



アマモの種子選別の様子

- 2年生になるとまた新しいチームを作る。1年生でマングローブを探究した班の子と、大阪湾について探究した班の子が混ざること、いろんな知識が合わさり、より理解が深まっていく。さらに2年生は沖縄の修学旅行で海に潜ってサンゴの移植をしたり、マングローブの植樹をしたりするので、それに合わせた学習も行う。

海洋プログラムチームの一員として、高校生が活動成果を発表し、小学校への出前授業も行う。

- 2年生の授業が終わると、毎年活動成果の発表を行う。
その1つが「海辺の自然再生・高校生サミット」での発表で、全国各地で海洋教育に取り組む高校生たちと交流を深めつつ、自分たちの活動の協力者を得たり、新たな課題を見つけたりする場になっている。



アマモサミットで活動成果を発表

- 高校生が小学生に海洋を教える出前授業も行っている。
海のない地域の人に興味を持ってもらうのも1つのテーマなので、大阪市外の小学校に出張することもある。「高校生が教えてくれるのがよい」と海洋教育に興味のある小学校の先生から呼ばれることが多く、教える側の高校生も小学生も共に楽しんで相乗効果を生んでいる。

より広域への普及をめざして、日本語と英語で「海洋教育を楽しく学べる教材作り」に着手。

- 2024 年度からは新たな課題解決のテーマとして、高校生が授業で「海洋教育を楽しく学べる教材作り」に取り組んでいる。
- 国際シンポジウムでの発表をきっかけに「活動を世界に広めたい」と思うようになったこと、さらには新たに海洋教育を始めるのに一から教材を作るのはハードルが高いという課題認識から、日本語と英語での教材づくりのアイデアに行き着いた。3年計画で完成をめざしている。

＜キーパーソンのメッセージ＞

仲間を増やししながら活動を継承し、広く発信していくことが重要。

「仲間を増やすこと」と「活動を広めること」が私たちのミッションだと考えている。阪南市でアマモ場再生に取り組む中でも、地元の人からそれが一番大事なことだと教わった。

高校生が海洋プログラムチームの活動を発信するのに加えて、海洋教育が子どもにとっても大人にとっても大切なことだと伝える機会をこれからも積極的に作っていきたい。

（関西大学北陽高等学校 花井英子先生。保健体育や創作ダンスを教えている。）

事例3 大阪から明るい水産業を創る会 (<https://www.facebook.com/naniwa.wakame/>)

<実施概要>

藻場創出

実施場所	ワカメ関連のイベントは岡田浦漁港（泉南市）、勉強会は大阪市内でそれぞれ実施。
目的	大阪の水産業を学び、食育活動を通じて、より多くの人に大阪の水産業を知ってもらい、食べてもらうことで、流通を活性化させることを目的に 2013 年に設立した。 岡田浦漁港でのワカメ関連のイベントは、会が発足する2年前から開催している。
内容	岡田浦漁港におけるワカメ関連のイベントを企画し、年2回実施。主たるイベントは収穫会で、漁港から船を出して収穫の様子を見学し、収穫したワカメを配布する。 11月：ワカメの種付け体験／2～3月：収穫会 勉強会是有識者を講師に迎えて、ワカメ関連イベントのない時期に隔月で実施。
実施時期	ワカメ関連イベントは11～3月頃、勉強会は4～10月頃。
対象	会員のほか、岡田浦漁港の来訪者、過去にイベントや勉強会に参加したことがあるリピーターなど。 会員数は10数名、年会費は10,000円。
成果・実績	○ワカメ関連イベントには毎回数十名が参加。 食育推進全国大会での出展も含め、大阪湾の養殖ワカメを広くアピールしている。 ○活動継続することで、岡田浦漁業協同組合に加えて、様々な企業や団体との連携やネットワークが広がり、新しい活動の展開へと進んでいる。



ワカメの種付け体験の様子

<取組みが広がっていった経緯>

岡田浦漁港でのワカメ関連のイベントを、地元の漁業協同組合の協力を得て開催することに。

- 会が発足する前、徳島県のワカメ収穫体験に参加した際に、大阪湾のワカメ養殖を知り、「大阪湾のワカメをアピールする体験イベントをやってみよう」と思い立ち、岡田浦漁業協同組合を訪問した。了承いただいたのち、体験イベントを毎年実施するようになった。
- ワカメの養殖場は泉南りんくう公園の目の前で、漁港から船で10分程度とアクセスが良い。波が穏やかな海域で育つ大阪湾の養殖ワカメは、身が厚く柔らかいという特長がある。

勉強会は、主要メンバーを中心としたネットワークで多彩な講師を招集し、継続している。

- 5、7、9月の第1日曜日の19時から大阪駅前第2ビルの貸会議室（大阪市生涯学習センター等）で勉強会を開催している。お弁当を食べながら専門家の話を聞き、意見交換を行う。参加費は会員が無料、非会員が1,500円で、講師には講師料2万円を支払う。
- 設立当初からの会員である主要メンバーが水産関連会社に従事していることから、独自のネットワークを通じて講師を招集。最近では、陸上養殖の企業、電子入札システムの開発企業、藻場創出の専門家、ワカメ専門家などを講師に迎えた。また、会員も講師を務めることがある。講師とは勉強会以降も定期的に情報交換するなどして交流を深めている。

＜活動の発展・継続のポイント＞

ワカメの収穫会は地元漁師の協力を得て、安心安全かつ楽しいイベントとして好評を博す。

- ワカメの収穫会では、岡田浦漁業協同組合が船2艘を出し、収穫する船には会員数名が同乗して収穫の様子を撮影、他の参加者（小学生以上、全員ライフジャケット着用）は残りの1艘に乗ってその様子を見学する。下船後は、漁師の方々からタコ飯と獲れたてのワカメの味噌汁を振る舞っていただいたのち、収穫した生ワカメを参加者に配布する。毎回参加者にはとても好評なイベントとなっている。



養殖ワカメの収穫の様子

- 岡田浦漁業協同組合とは、船を出す、料理を振舞うだけでなく、安全にイベントを実施できるようにするため、事前に入念な打ち合わせを行っている。

「食育推進全国大会」の出展ブースでは、大阪湾のワカメの魅力を子どもに伝えるように工夫。

- 2024年6月に大阪府で開催された「第19回食育推進全国大会」にブース出展し、パネル展示やワカメクイズ、大阪湾の説明、実物大（全長2m）のワカメペナント展示と撮影会、ワカメ収穫の動画放映などを行い、大阪湾のワカメを一般の人に向けて広くアピールした。また、クイズに正解した人には景品として海洋プラスチックを利用したボールペンをプレゼントし、用意した2,000本を全て配り終えた。



「第19回食育推進全国大会」出展の様子

- 会員全員で手分けして作成した展示物については、特に子ども向けに大阪湾のワカメの魅力をどう伝えていくかを工夫した。文字を減らす、イラストを多用するなどの工夫に加え、海藻と草木の違いから、ワカメの色のヒミツ、ワカメの栄養素などできるだけポイントを絞りこむよう工夫して作成した。

活動経費については、会費以外の資金も活用している。

- 会費以外に食育の取組みとして大阪府の漁業振興基金を毎年活用し、活動資金に充てている。主にイベント時のレンタカー代や漁師への支払い、勉強会の講師謝金などに支出している。
- 「食育推進全国大会」へのブース出展は、展示物の作成や出展費用の一部について総合海事業者の深田サルベージ建設株式会社に協力いただいて実施している。

＜キーパーソンのメッセージ＞

水産食の魅力やブルーカーボンの重要性を体験イベント等で訴求したい。

「食育」というテーマは、主要メンバーは本業で日々扱っているもので、今後も重視し、何か体験してもらえるイベント等を企画し実施していきたい。体験してもらうことで、私たちにも「気づき」が必ず生まれる。

また、子どもに食の魅力やブルーカーボンの重要性について伝えるのはとても難しいが、子どもが分かれば大人にも分かってもらえる。全長2mのワカメペナントの展示撮影会は、大人にも楽しんでもらえた。



大阪から明るい水産業を創る会 事務局 濱口昭広さん。普段は水産物関連の食品商社に勤めている。

事例4 兵庫運河を美しくする会 (<https://www.hyougounga.jp/>)

<実施概要>

清掃美化活動

藻場創出

生物観察

実施場所	兵庫運河（兵庫県神戸市兵庫区） 主に、行政により造成された2ヶ所の人工干潟で活動。
目的	兵庫運河の水質改善を目的として、2013年に「兵庫運河の自然を再生するプロジェクト」（後述参照）を発足。その後、運河の美化に向けて生物多様性の保全や藻場創出等にも取り組みの幅を広げている。
内容	兵庫運河周辺の清掃を行う「会員合同清掃活動」を年2回実施している。 2024年5月開催分は9時～11時半まで、126名が6班に分かれて参加した。 集めたごみは神戸市環境局が回収し、処分した。 「会員合同清掃活動」の他、専門家協力のもと、アマモの種まきや分布調査、アサリ・海藻の分布調査、生き物観察会などを実施している。
実施時期	「会員合同清掃活動」は春（5月）と秋（11月）。 各種調査は連携する専門家や地元の小学生により1年を通して実施。
対象	兵庫運河が好きで、きれいにしたいと思う地域の企業や地域住民などが参加。 会員数57（2024.12現在）。年会費は企業・団体：12,000円、個人：3,000円
成果・実績	○継続的な清掃活動により、水辺やプロムナードのごみが減り、住民から「癒される水辺になった」と言われるようになった。 ○水質がきれいになったことで、アマモ場創出（生育面積の増加など）、アサリや牡蠣など貝類をはじめとする生き物の増加などの効果がみられる。



アマモが繁茂する様子

<取り組みが広がっていった経緯>

54年前に設立。2013年には「兵庫運河の自然を再生するプロジェクト」が発足。

- 木材業者が貯木場として活用していた兵庫運河は、高度経済成長期には水質汚濁が進み、ヘドロが蓄積し、メタンガスが発生するなど生き物の生息が難しい環境だった。そこで神戸市の声かけから木材業者が中心となり、「兵庫運河を美しくする会」を1971年に設立した。
- 2013年に兵庫運河を美しくする会、兵庫漁業協同組合、兵庫運河・真珠貝プロジェクト、兵庫・水辺ネットワーク（専門家、市民活動家の団体）の4団体により、兵庫運河で環境保全活動に取り組む「兵庫運河の自然を再生するプロジェクト」を発足した。2015年からは地元の神戸市立浜山小学校も参画している。

行政による人工干潟の造成を機に、干潟の保全や藻場創出の取り組みが本格的に進む。

- 2015年に神戸市が「浜っ子きらきらビーチ」を竣工、2020年には国土交通省が人工干潟「あつまれ生き物の浜」を造成した。干潟の名称はそれぞれ浜山小学校の児童が命名した。
- 並行して、兵庫運河の自然を再生するプロジェクトが、生物多様性の保全に向け、専門家協力のもと調査や測定、アマモの種まきなどを地域で協力しながら取り組むようになった。

＜活動の発展・継続のポイント＞

「会員合同清掃活動」を年2回実施。合わせて、専門家協力のもとアマモの種まきや調査を実施。

- 春と秋に「会員合同清掃活動」を実施し、企業や住民などの会員を中心に100～120名が参加している。兵庫漁業協同組合が船を出し、水中のごみも回収。
- 「会員合同清掃活動」と同時開催で、専門家協力のもとアマモの種まきや調査を実施している。
- 清掃活動はこれまでに計43回実施している（2024.11現在）。活動を継続する中で、活動内容をホームページで発信し、小学校の校外学習や兵庫区によるイベントなど目に見える活動で、次第に参加者や会員が増えていった。



大清掃会の様子

2022年3月にJブルークレジット認証取得。会員の購入希望者全員に発行。

- 取組成果を通じて、兵庫運河の自然を再生するプロジェクトの参画団体の連名で、運河に貯留されたCO₂の量を算出して申請し、2022年3月に「Jブルークレジット」を西日本で初めて認証され、企業にJブルークレジットを発行した。
- Jブルークレジット認証では大口を5万円、小口を1万円と設定。大口は7社が、小口は10社が購入した。会員には購入希望者全員に発行した。主な用途は、清掃道具や清掃時のビブス、弁当代、ホームページの維持管理費など活動の継続に使用している。

海洋研究の専門家、地元の小学校、漁協、行政との連携により活動を展開。

- 徳島大学や西宮市貝類館などの専門家ネットワークがあり、各自が兵庫運河でアマモの成長観察、貝類調査、バフンウニ観察、水流調査などの研究活動を展開している。一方、Jブルークレジット申請で必要なデータを含め、水質調査や生物調査、アマモの生育状況観察などについては専門家から随時協力を得ている。



専門家協力のもと小学生が生物調査を実施

- 浜山小学校では、3年生が生物多様性に関する学習として、春にアサリの稚貝をネットに入れて放流し、秋にはどれくらいアサリの数が増えたかを調べる観察会を実施している。
- 兵庫漁業協同組合は、アマモの種まきや子どもたちの教育などにおいて船を出している。
- 行政とも連携し、兵庫運河の環境改善に向けて、関係者と一体となって取組みを進めている。

＜キーパーソンのメッセージ＞

仕事も教育も子育てもしやすい地域にすることが一番。

私たちがやりたいことを続けていたら、地域が良くなり、住みやすくなってきた。これからも自然体で活動を続けていきたい。

生物多様性も重要だが、もっと重要なのは人間が住みやすくなること。仕事も教育も子育てもしやすい地域になっていくことが一番だと思っている。運河は基本的には商業の場であり、この地域は工業地帯でもある。地域の人が憩える場、みんなの拠り所であってほしいと私は思う。



兵庫運河を美しくする会
会長 服部鋭治さん。
兵庫運河に面した木材業者の3代目。

事例5 STEAM CLUB (<https://steamclub-horie.com/>)

<実施概要>

生物観察

実施場所	淡輪の古民家（大阪府泉南郡岬町）、淡輪海水浴場
目 的	STEAM 教育※を子どもたちに体感させる自然体験イベント ※STEAM 教育：科学(Science)・技術(Technology)工学(Engineering)・芸術(Arts)・数学(Mathematics)の5つの分野を統合的に学ぶ教育。
内 容	淡輪にある古民家（BAZ11）を滞在拠点として、海の体験イベント「淡輪海の基地で自然体験！」を実施。 夏休みに子どもたちが親元を離れて合宿をしながら、子どもの自立性、協調性、積極性を育みつつ、ゆっくり過ごせるよう、2泊3日で実施。イベントの中で、海水浴や海の生き物観察、料理なども実施している。 同様の趣旨で、親子参加の日帰り自然体験イベントも実施。
実施時期	2泊3日イベントは7月から8月（2024年は4回実施）。 日帰り自然体験イベントは6月（2024年は1回実施）。
対 象	未就学児から小学6年生まで（日帰り自然体験イベントは親子）
成果・実績	○2024年に計4回開催した2泊3日イベントは各回15名ずつ、日帰り自然体験イベントは親子10組募集し、いずれの回もほぼ満席となった。 ○開催後アンケートでは、ほぼ全員が「来年も参加したい」と回答。参加した保護者からは「対応がしっかりしていて安心した」と高い評価を受けた。



<取組みが広がっていった経緯>

STEAM CLUBとBAZ11を運営する2人の母親が共同で海の体験イベントを企画。

- アフタースクール「STEAM CLUB」の代表を務める堀池さんが、子育て仲間の池谷さんから「購入した淡輪の古民家（BAZ11）で子どもたちの自然体験イベントを企画したい」と声がかかったのが取組みのきっかけ。相談の上、STEAM CLUBとBAZ11を運営する2者で共同開催することにした。
- スタッフが現地へ下見に行った際に、海辺にヤドカリやクラゲ、魚など生き物がたくさん生息しているのを確認し、子どもたちにとって良い体験になると思いついたことから、プログラムの1つとして海の生き物観察を実施することになった。

地元を何度も訪問し、地域情報の収集に加え、地域住民との対話を積み重ねて関係性を構築。

- 古民家オーナーの池谷さんが町会へ何度も挨拶に行き、「ここに子どもたちを連れてきて、イベント等を開催したい」とお話しして、少しずつ賛同者を増やして信頼関係を築いていった。
- スタッフによる下見の際にも漁業組合や町会へ挨拶に行き、開催日やその内容に加え、子どもが活動することを説明し、地元の理解を得るよう心掛けている。また、古民家から海までの行き方やお店など、必要な地域情報も訪問の際に収集している。

＜活動の発展・継続のポイント＞

助成金を活用することで、手頃な参加費に設定。高い集客効果を得ている。

- 2泊3日イベントの参加費は1人当たり15,000円で、日帰りイベントの参加費は親子で5,000円。いずれも、参加者にリーズナブルだと捉えられた。
- 参加費を抑えてイベントを開催するため、「子どもゆめ基金」（270ページ参照）に申請して採択された。この助成金を活用することで、2泊3日イベントは予定額の半額程度に設定できている。

地元スタッフや漁業組合などの協力を得ながら、安全性に配慮しつつ、受け入れ体制を強化。

- 2泊3日イベントには地元スタッフを含めた計4名が同行した。地元スタッフは地域に精通し、病院や休日外来などの有用な地元情報も知っているので、随行することが有効に働いている。
- 海の見守りを行っている地元の漁業組合やライフセーバーに、開催前や当日に挨拶を行い、何かあった時にすぐ相談できる体制を作っておくことで、安全にイベントが遂行できるように配慮している。
- 地元の漁業組合から現場の状況を事前に聞き取り、参加者に注意喚起や長袖やウォーターシューズの着用を促すなど、海での怪我を防ぐために対策を行っている。
- 海の生き物観察について、イベント当日は基本的に専門家が随行せず、生き物を見つけると、名前や特徴、生息地などの情報をインターネット（Google レンズ等）で調べて、スタッフと子どもと一緒に探求している。



海の生き物観察の様子

チラシやSNSで告知し、子どもや親のコミュニティを通じて情報を拡散。

- 各所でチラシ配布して告知する際に、コミュニティを持っている人に情報が届くと情報が拡散される。2024年の開催時には、小学生のアメフト部、女性起業家の集まりなどで拡散され、自ら応募したり友達を誘ってくれたりすることで、集客につながった。
- SNS（Instagram等）も情報拡散の効果が高く、STEAM CLUBのイベントをチェックする多くのフォロワーに興味を持ってもらい、フォロワーが友達を誘って参加するケースもみられた。

＜キーパーソンのメッセージ＞

地域の小学生に広く周知し、活動の門戸を広げていきたい。

STEAM教育も、海での自然体験も、「自分が欲しているけれど、いまはまだ無いもの」を自ら作り、運営してきた。

自然体験では子どもたちの成長が感じられるので、さらに門戸を広げていきたい。満席になれば良しとするのではなく、もっとたくさんの人にイベントの存在を知ってもらえるように、今後は地域の小学生にも広く周知していきたいと思っている。



STEAM CLUB 共同代表 堀池香織さん。

<事例6>

藻場創出

清掃美化活動

実施団体	NPO 法人大阪海さくら https://www.osakaumisakura.com/	
概要	①大阪湾でアマモを育て海の生物を知ろう、②淀川ごみ拾い	
実施場所	①ちきりアイランド（岸和田市沖）、高師浜（高石市） ②淀川河口（主に阪神電鉄伝法駅付近）、大阪湾	
目的	①海洋生物やアマモ場を守り、海の魅力を伝える。 ②楽しくごみ拾いを行い、大阪の海をきれいにする。	
内容	①アマモを育てる活動（アマモの里親制度として、冬にアマモの種まき、3月にアマモ移植を実施する。アマモポットは380個配布（2024年実績）、地引網で海洋調査等を実施。 ②大阪湾・淀川等でごみ拾い活動の実施、プラごみの青空教室を開催。 ①、②の他、海の環境問題や活動を知ってもらうためのチャリティーコンサートを定期的を開催し、売上を海の活動に活用。音楽・芸術・パフォーマンスを通して活動の輪を広げている。	 出典：大阪海さくらHP
実施時期	①通年（アマモの移植は3月）、②毎月第三日曜日 10時伝法公園集合	
対象・人数	一般 44名（アマモ移植、2024年実績）	
その他	「地球環境基金」（269ページ参照）を活用。	

<事例7>

藻場創出

実施団体	関西エアポート株式会社 https://www.kansai-airports.co.jp/efforts/environment/friendly/	
概要	関西国際空港島護岸の藻場環境の創造	
実施場所	関西国際空港島護岸	
目的	大阪湾の豊かな海洋環境の創造	
内容	大阪湾を埋め立てて造られた人工島である関西国際空港では、計画時から海洋環境との調和が重視され、藻場環境の造成が進められてきた。2022年には藻場に生育する海藻によるCO₂吸収量を定量化し、Jブルークレジットの認証を受けた。地元自治体とも連携し、大阪湾の豊かな生態系づくりに取り組んでいる。	 空港島周辺の藻場 出典：関西エアポート株式会社HP
実施時期	通年	
その他	「令和5年度前期自然共生サイト」に認定。	

<事例8>

藻場創出

実施団体	ENEOS株式会社堺製油所	
概 要	「令和の里海づくり」藻場創出活動	
実施場所	堺市西区築港浜寺町	
目 的	海中の生物の生息環境の創出	
内 容	大阪湾の臨海工業地帯に立地する企業の未使用護岸に、藻類等が着生しやすいブロックを設置し、定期的にモニタリングを実施。 取組内容は地域住民等に向けて情報発信を行っている。	
実施時期	通年	
そ の 他	環境省「令和の里海づくり」モデル事業	



<事例9>

藻場創出

実施団体	阪南市 他 https://www.city.hannan.lg.jp/kakuka/syogai/gakko/1615283243604.html https://www.city.hannan.lg.jp/kakuka/mirai/promotion/SDGs/7843.html	 阪南市沿岸域のアマモ場   活動の様子 写真提供：阪南市
概要	はんなん海のゆりかご再生活動	
実施場所	阪南市沿岸域のアマモ場	
目的	子どもが藻場の再生に取り組むことで生物の大切さを学ぶ	
内容	小学校での海洋教育を中心とした、市民・NPO・企業・行政等の協働によるアマモ場の保全・再生・活用	
実施時期	通年	
その他	「令和5年度前期自然共生サイト」に認定。 「第1回全国海の再生・ブルーインフラ賞 みなと総研賞」を受賞。	

<事例 10>

生物観察

実施団体	貝塚市立自然遊学館 https://www.city.kaizuka.lg.jp/shizen/chosakenkyu/nishiki_kogigawa.html	
概 要	二色の浜および近木川河口の海岸生物調査	
実施場所	二色の浜、近木川河口（貝塚市）	
目 的	魚類、貝類、甲殻類などの生物調査	
内 容	潮間帯のベントス（底生生物）を定期的にモニタリングし、近木川河口の干潟では 1996 年からハクセンシオマネキの個体群の経年調査、二色の浜では 2014 年からアマモ場にすむ生き物の調査を実施。 毎年 5 月には一般参加者とともに大阪湾の沿岸各地で生き物を一斉に調査するイベント「渚の生きもの」を実施。	 「渚の生きもの」実施の様子 出典：貝塚市立自然遊学館HP
実施時期	通年（「渚の生きもの」は5月）	
対象・人数	一般 40 名（2022 年イベント実績）	

<事例 11>

生物観察

実施団体	チーム☆ガサ https://team-gasa.com/	
概 要	大阪湾でガサ（海で網を持ってガサガサする）を通じて自然の重要性・魅力を普及啓発	
実施場所	阪南市西鳥取漁港横の波有手海岸	
目 的	阪南市を中心に大阪湾の魅力を伝える	
内 容	アマモの保全や藻場に集う生き物調査、地域の小中学生の授業サポートなど次世代に繋げる活動を実施。 メンバーである大阪湾で活動する海の専門家が、関連団体のサポートや講師として各地へ出張するほか、毎年夏に主催イベント「夏休みの自由研究」（内容は干潟で生き物採集）を行っている。	 出典：チーム☆ガサ facebook
実施時期	通年（「夏休みの自由研究」は7月）	
対象・人数	イベントは小中学生 20 名程度	
そ の 他	大阪湾広域臨海環境整備センター「環境保全市民活動等助成金」（269 ページ参照）を活用。	

<事例 12>

生物観察

漁業体験

清掃美化活動

実施団体	なにわエコ会議 https://www.naniwaekokaigi.org/		
概要	淀川水系で魚、昆虫、鳥などの生物を観察して、自然と親しむ		
実施場所	淀川上流（島本町水無瀬川）、 淀川河口（大阪市海老江付近）	 淀川上流河川の水生生物観察  鳥類観察 出典：なにわエコ会議 HP	
目的	人と環境が調和する「環境先進都市おおさか」の実現、持続可能な開発目標（SDGs）達成に寄与		
内容	「淀川自然探検隊」では毎年、淀川河口での石干見（いしひび）漁の漁業体験、船でははぜ釣り体験、河川敷の生物観察を行っている。 その他、河川などのプラスチックごみ削減に向けたイベントを毎年複数回、実施している。		
実施時期	8 月末～10 月初旬		
対象・人数	大阪市内の子ども 漁業体験 80 名、はぜ釣り 14 名、 生物観察 100 名（2024 年実績）		

<事例 13>

生物観察

自然再生

実施団体	津之江公園を活かす会 （一般社団法人たかつき環境市民会議、たかつき市民環境大学 OB 会） https://takatsuki-kankyo.sakura.ne.jp/	
概要	津之江公園自然再生エリアの維持管理、自然学習活動	
実施場所	津之江公園（高槻市）	
目的	津之江公園の自然再生	
内容	「一般社団法人たかつき環境市民会議」と「たかつき市民環境大学 OB 会」が「津之江公園を活かす会」を設立して、高槻市と「津之江公園自然再生エリアに係る管理協定」を締結し、保全活動の他、小学生の環境学習支援、植物観察会、昆虫観察会、野鳥観察会を開催している。	 植物観察会 提供：たかつき環境市民大学 OB 会
実施時期	通年	
その他	セブン・イレブン記念財団「環境市民活動助成」（270 ページ参照）を活用。	

<事例 14>

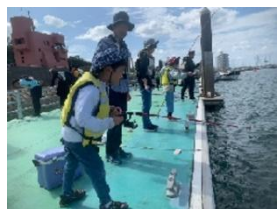
生物観察 漁業体験 海洋レジャー

実施団体	公益社団法人 大阪自然環境保全協会（ネイチャーおおさか） https://www.nature.or.jp/index.html	
テーマ①	海のふしぎ観察会（大阪湾の地曳網体験と生き物観察会）	
実施場所	岡田浦漁港（泉南市）、せんなん里海公園（泉南郡岬町）	
目 的	大阪湾に生息する生物について学ぶ	
内 容	午前中は、泉南市の「岡田浦漁港」で地曳網を体験し、大阪湾で獲れる魚類について学ぶとともに、午後からは砂浜や干潟に生息する生物観察会を行い、大阪湾に生息する生物について学ぶ。	 出典：大阪自然環境保全協会 HP
実施時期	8月（9:00～14:30）	
対象・定員	子どもとその保護者 40名（一般大人も参加可）	
そ の 他	「子どもゆめ基金」（270 ページ参照）を活用。	
テーマ②	海のふしぎ観察会（「大阪湾シュノーケリング体験」in せんなん里海公園）	
実施場所	せんなん里海公園（泉南郡岬町）	
目 的	大阪湾でのレジャーを体験する共に海中に生息する生物について学ぶ	
内 容	初心者も含め、ダイビングインストラクターの指導の下、大阪湾海の海藻、魚の群れ、磯の生物などを観察し、大阪湾の豊かな生態系について学ぶことができる。	 出典：大阪自然環境保全協会 HP
実施時期	小学校 3 年生以上とその保護者 20 名	
対象・定員	8月（10:00～15:00）	
そ の 他	「子どもゆめ基金」（270 ページ参照）を活用。	

<事例 15>

海洋レジャー

生物観察

実施団体	大阪府立青少年海洋センター (指定管理者：ナンブフードサービス株式会社/NPO 法人 NAC (ナック)) http://www.osaka-kaiyo.com/index.html		
テーマ①	マリンプログラム		
実施場所	大阪府立青少年海洋センター (泉南郡岬町)		
目的	身近な大阪湾で海洋レジャーを体験し、大阪湾の豊かさを学ぶ		
内容	大阪府立青少年海洋センター前的大阪湾でカッター、ヨット、カヌー、クルージング、いかだ等の大阪湾の海洋レジャーを体験できる。同センターは宿泊施設も備えており、学校等の団体の宿泊による課外活動やキャンパイベントとしても利用できる。事前打ち合わせにより希望に合わせて複数のプログラムを実施することができる。	 カッター  ヨット  カヌー  クルージング  いかだ	
実施時期	カッター、クルージングは 3～12 月/ヨット、カヌーは 3～11 月/いかだは 6～10 月		
対象・定員	カッター、ヨット、カヌー、いかだは主に小学校高学年以上。クルージングは制限なし。	写真提供：大阪府立青少年海洋センター	
テーマ②	フィールドプログラム		
実施場所	大阪府立青少年海洋センター (泉南郡岬町)		
目的	大阪湾の磯浜でのレジャーを体験するとともに、大阪湾に生息する生物について学ぶ		
内容	大阪府立青少年海洋センター隣接のせんなん里海公園の磯場や砂浜等で「磯遊び/サンドアート/ビーチコーミング(※)/砂浜オリンピック/魚釣り/生き物観察会」等の大阪湾の磯浜でのレジャーを体験できる。宿泊、又は日帰りでの利用が可能で、同センターは必要な備品の貸出を行う。一部のプログラムを除き、職員による指導は行わない。 ※ビーチコーミング：貝殻や流木、漂流ごみなど海岸や砂浜に打ち上げられた漂着物を集めて観察すること	 ビーチコーミング  魚釣り  生物観察	
実施時期	通年		
対象・定員	小学校高学年から(ビーチコーミング、砂浜オリンピック)、家族など(魚釣り、生き物観察会) 制限なし(磯遊び、サンドアート)	写真提供：大阪府立青少年海洋センター	

<事例 16>

生物観察

漁業体験

実施団体	きしわだ自然資料館 https://www.city.kishiwada.osaka.jp/site/shizenshi/	
概 要	ちめの海とおの湖、間をつなぐ川しらべ	
実施場所	岸和田漁港／瀬田漁港／あくあびあ芥川	
目 的	大阪湾と琵琶湖及びその間をつなぐ淀川を学ぶ	
内 容	大阪湾(岸和田漁港)、琵琶湖(瀬田漁港)、淀川(あくあびあ芥川)で実施される3日間の連続講座。 大阪湾では岸和田漁港の見学により、大阪湾で獲れた魚について専門家の説明により学んだあと、「きしわだ自然資料館」に移動し大阪湾の生物を含む展示内容の見学や「チリメンモンスター実習」を実施する。 琵琶湖では、琵琶湖で活動する環境学習等支援グループ「びわたん」によるセタシジミの貝漁体験と環境学習、「あくあびあ芥川」では淀川に生息する生物などについて学習する。	 出典：きしわだ自然資料館 HP
実施時期	8月／9月／12月	
対象・定員	小学生以上（小学生は保護者同伴）※幼児同伴不可 20名	
そ の 他	「河川基金」（272ページ参照）を活用。	

<事例 17>

清掃美化活動

生物観察

実施団体	NPO法人地球環境市民会議（CASA）／一般財団法人環境事業協会 https://www.casa1988.or.jp/WP/activity_report/3349/	
概 要	成ケ島（洲本市）プラごみ調査と海の生き物観察ツアー	
実施場所	兵庫県洲本市成ケ島	
目 的	清掃活動や生物観察を通じてマイクロプラスチック問題について考える	
内 容	海洋ごみがたくさん集まる兵庫県洲本市成ケ島に行くエコツアーで、プラスチックごみの回収調査や干潟での生物観察を行い、マイクロプラスチック問題等について考える機会を提供している。また、昼食には地元漁協が準備した「たこ飯」等が用意され大阪湾の恵みについても体験できる。	 活動の様子  地元の魚介類を使った昼食 出典：NPO 法人地球環境市民会議（CASA）HP
実施時期	11 月（8:00～18:30）	
対象・定員	小学生以上（ただし、中学生以下は単独参加不可） 40 名	
そ の 他	「子どもゆめ基金」（270 ページ参照）と「大阪府環境保全活動補助金」（269 ページ参照）を活用。	

<事例 18>

清掃美化活動

生物観察

実施団体	一般財団法人環境事業協会 https://www.kankyougigyaku.or.jp/environmental/	
概 要	MIZUBE キャラバン 2023 みんなの海ごみクリーン大作戦 in 友ヶ島	
実施場所	友ヶ島（和歌山県和歌山市）	
目 的	海ごみについて学ぶ	
内 容	和歌山県和歌山市の無人島「友ヶ島」に行くエコツアーで、漂着した海ごみの回収や海ごみの種類を調査し、海の生物への影響、海ごみを減らすためにはどうすればいいのか、などを体験しながら学ぶプログラム	  出典：環境事業協会 HP
実施時期	9 月	
対象・定員	小学 4 年生～6 年生とその保護者 10 組 30 名	

<事例 19>

清掃美化活動 生物観察

実施団体	男里川干潟（おのさとがわ ひがた）を守る会（1995 年設立）	
概 要	干潟での生物観察、清掃美化活動	
実施場所	大阪府泉南市及び阪南市の男里川河口 （海岸から里山、上流・源流まで）	
目 的	干潟に生息する生物について学ぶ	
内 容	大阪府に残る貴重な自然干潟の男里川河口干潟で【月定例・臨時の清掃美化活動】と【生物観察モニタリング・観察会】を 30 年間継続している。設立以来、地域の個人や他団体との協働による活動を実施しており、男里川河口干潟以外の泉州地域の自然環境保全の活動にも取り組んでいる（アマモ藻場再生、アカウミガメ上陸・産卵・孵化の見守り、貝類・ホタル類・ウミホタル観察 など）。	 出典：大阪湾生き物一斉調査 情報公開サイト
実施時期	通年	

<事例 20>

清掃美化活動 生物観察

実施団体	自然と本の会 https://shizentohon.jimdofree.com/	
概 要	定期的な海岸での清掃美化活動、生物観察	
実施場所	貝掛海岸（ハマボウフウの浜）・箱作自然海岸	
目 的	海岸に生息する生物についての学びとその保全活動	
内 容	アドプト・シーサイド・プログラムとして活動している海岸や大阪でわずかに残されている自然海岸で主に会員による清掃美化活動を継続して行っている。特に、貝掛海岸（ハマボウフウの浜）では、毎年 5 月の大潮の干潮時間帯に沖合に現れる干潟での子供向けの浜遊びイベントを実施している。この干潟では、普段見ることのできない海底に生息する生物を観察することができる。ハマボウフウの浜はハマヒルガオや絶滅危惧種のハマボウフウの群生地、その保全活動にも取り組んでいるほか、亜熱帯植物グンバイヒルガオの定着も確認した。	 地砂浜に咲くハマヒルガオ  沖合に現れた干潟 写真提供・出典：自然と本の会 HP

<事例 21>

生物観察

実施団体	せんなん里海公園管理事務所（一般財団法人大阪府公園協会） https://www.osaka-park.or.jp/rinkai/sennan/main.html	
テーマ①	ウミホタルウォッチング	
実施場所	せんなん里海公園ときめきビーチ	
目 的	大阪湾に生息する生物について学ぶ	
内 容	まず、砂浜に隣接する東屋でウミホタルの生態等に関するレクチャーを行った後、ウミホタル捕獲用の仕掛けを海に投入する。 仕掛けでウミホタルが捕獲できるまでの間、再度、東屋で海や自然に関するクイズなどを実施したのち、仕掛けを引き上げウミホタルの観察を行う。 最後、ウミホタルを砂浜から海水中に戻すと波打ち際でウミホタルが“天の川”のように光る光景を見ることができる。	
実施時期	10月（18:30～20:00）	出典：里海ニュース No. R4-15
対象・定員	一般（小学生以下は保護者同伴） 30 名	
テーマ②	陸ガニ観察会	
実施場所	せんなん里海公園「潮騒ビバレー多目的室/あふれ滝」	
目 的	大阪湾に生息する生物について学ぶ	
内 容	まず、公園内の研修室で紙芝居を使うなどして陸ガニの生態についてレクチャーするとともに、事前に捕獲した陸ガニに直接触れるなどして観察する。 近くの小川に移動し、陸ガニの放仔を観察する。陸ガニの放仔は7月から9月の満月の夜の前後に観察できる。	
実施時期	8月（18:30～20:00）	出典：里海ニュース No.R5-9
対象・定員	一般（小学生以下は保護者同伴） 20 名	
テーマ③	海の小さな怪物チリメンモンスターを探そう！	
実施場所	せんなん里海公園 「潮騒ビバレー」	
目 的	大阪湾に生息する生物について学ぶ	
内 容	大阪湾やチリメンの特徴などを学びながら、チリメンモンスター（※）を探して、キーホルダーやチリメン・コレクションを工作する。 ※チリメンモンスター： 魚屋や漁港で入手できるちりめんじゃこに混じるさまざまな生き物（チリメンモンスター）を探し出すことで、海の生き物の多様性などについて学ぶ体験型学習プログラム	
実施時期	7月（10:00～12:00）	出典：里海ニュース No.R5-9
対象・定員	一般（小学生以下は保護者同伴）	

<事例 22>

生物観察

実施団体	海遊館 http://www.osaka-kaiyo.com/index.html	
テーマ①	大阪湾スナメリ調査	  スナメリ調査の様子 写真提供：海遊館
実施場所	関西国際空港の周辺海域	
目的	大阪湾に生息する生物について学ぶ	
内容	スナメリと大阪湾についてのレクチャーののち、大阪港から調査船に乗り、関西国際空港の周辺海域を中心に目視調査を行う。調査終了後、船内でふりかえりのレクチャーが行われる。	
実施時期	5～6月（9:00～14:10）（2023年実績）	
対象・定員	高校生以上 15～30名	
テーマ②	飼育員と一緒に磯観察！「大阪湾の海辺の自然観察会 in せんなん里海公園」	
実施場所	せんなん里海公園「さとうみ磯浜」とその周辺エリア（現地集合、現地解散）	
目的	大阪湾に生息する生物について学ぶ	
内容	海遊館の飼育員と「せんなん里海公園」（大阪府泉南郡岬町）の人工磯や浜へ出かけ、生物観察を行うとともに、海浜植物の観察などを通して、大阪湾の自然に親しむプログラム	 出展：海遊館 HP
実施時期	5月（10:20～15:30）（2023年実績）	
対象・定員	小学生以上（小学生は保護者の参加が必須） 20名	

<事例 23>

自然再生

実施団体	NPO 法人共生の森／大阪府 https://www.pref.osaka.lg.jp/midori/midori/kyousei.html	
概要	堺第7－3区「共生の森づくり」	 
実施場所	堺市西区築港新町（堺第7－3区）	
目的	産業廃棄物埋立処分場跡地の自然再生	
内容	草刈りイベントの開催等による森づくり活動及び自然観察	
実施時期	通年	
その他	「令和6年度前期自然共生サイト」に認定。	

(2) 他の海域における活動事例

<事例 24>

自然観察

水辺レジャー

実施団体	NPO 法人あそんで学ぶ環境と科学倶楽部 http://www.enjoy-eco.or.jp/ https://www.youtube.com/watch?v=RYslqtXWHOY
概要	都心の水辺でエコツアー（神田川・日本橋川コース）
実施場所	東京都内神田川、日本橋川
目的	東京の街を水辺から眺めることで、環境保全の取組みを考える
内容	江戸時代の水路を中心とした街づくりや水質環境の向上から変化しつつある神田川や日本橋川を巡りながら、様々な資源を使って川についての理解を深めるスタディーツアー。 日本橋観光桟橋から出発し、日本橋川→神田川を巡り、一部隅田川を通して、日本橋へ戻る所要時間約2時間のコース。 途中、水路に生息する野鳥や水生生物を観察し、また、護岸やパイプから出てくる排水から水質環境について、認定ガイドの説明も聞きながら考える。
実施時期	通年
対象・定員	一般（定員：10名/30名（ボートによる））
その他	環境省等が主催するエコツーリズム大賞では、「都市型エコツーリズムの萌芽的存在として評価」され第5回特別賞、「多面的に環境負荷への配慮がなされた活動として評価」され第8回優秀賞をそれぞれ受賞。



出典：特定非営利活動法人あそんで学ぶ環境と科学倶楽部 HP

<事例 25>

文化的資源の体験

生物観察

清掃美化活動

実施団体	一般社団法人瀬戸内海エコツーリズム協議会 https://setoecokyo.jimdofree.com/
概 要	宮島エコツアー
実施場所	瀬戸内海 宮島及び周辺海域
目 的	宮島の環境資源を文化・歴史・生物多様性保全等の観点から活用する
内 容	全島が国の特別史跡・特別名勝に指定され、世界遺産の厳島神社やラムサール条約湿地も有する広島県西部の宮島の7つの浦（入り江にできた砂浜や磯浜など）を船で巡りながら、途中「潮間帯生物の観察」、「汽水域の動植物観察」、「漂着ごみ観察・海浜清掃」、「小川のトレッキング」などのアクティビティを行うエコツアー。各アクティビティでは専門ガイドによる解説を行う。
実施時期	8～9月（9:00～17:00）
対象・定員	一般 10 名
そ の 他	「生物多様性保全推進交付金（エコツアー地域活性化支援事業）」（273 ページ参照）を活用。 環境省等が主催するエコツーリズム大賞では、本エコツアーを含む実施団体の取り組みが「多様な主体を結び付けて（エコツーリズム推進法に基づく）全体構想策定に取り組む点が評価」され第 10 回特別賞を受賞。 エコツアーチラシ 汽水域の植物観察 潮間帯生物観察
出典	一般社団法人 瀬戸内海エコツーリズム協議会 HP

<事例 26>

清掃美化活動

生物観察

自然再生

実施団体	天神崎の自然を大切にする会 https://www.tenjinzaki.or.jp/		
概 要	ナショナル・トラスト運動による陸地・海底清掃、植樹、生物観察教室等		
実施場所	天神崎（和歌山県田辺市）		
目 的	天神崎の自然保護と環境教育の推進		
内 容	当該団体は、和歌山県の田辺湾北側の岬に位置する天神崎の多様な生物の生息する環境を開発から守るため、ナショナル・トラスト運動により土地を買い戻したうえで、年 4 回の定期清掃活動、毎年6月初旬に開催する自然観察教室のほか、海底清掃やビオトープ整備、植林活動などの多様な活動を行っている。		
対象・定員	一般		
	  天神崎 海底清掃   定期清掃活動 自然観察教室 出典：一般社団法人天神崎の自然を大切にする会 HP		